



森元 清蔵 議員
(清流会・かさいを育む会)

24 億円かかる庁舎増築は必要ない



問 第二付属棟実施設計では、1 階は 3 つの課が一緒になり、サービスを一本化する意図はよく分かる。2 階は検査室と会議室、3 階は防災センターが配置され、全体的に会議室が多い。設計ではどのように考えられたのか。

答 設計の第一段階の原案では、療育室を第二付属棟の中に設置する計画でしたが、最終的に利用者の意見を重視し、療育室は現状どおり福祉会館に残すことになりました。しかし、療育室の完全な一元化は議論の余地があること、また、庁舎の状況から会議室

の確保は利用価値が大きいことを考慮し、実施設計を行っています。

問 事業費 24 億円のうち、17 億 6,500 万円の起債の返済計画は。

答 起債の償還期間は実質的に 17 年間ですので、毎年度 1 億円を返していくことになりますが、歳入として交付税措置もされます。財政収支計画でしっかり対応していきます。

問 建設反対の市民の声をどう受け止めているか。令和 6 年 10 月 29 日には、2,280 筆の反対の署名が出されている。

答 (市長) 議会審議を経て設計予算も可決いただいた中、なぜ今頃署名なのか、本当に純粋に署名されたのか疑問に思うこともあります。財政計画上の 35 億円をそのままあおり材料に使う、まさに足を引っ張るしか考えがな

いのかと憤慨しています。職員のための庁舎増築と勘違いされての意見も多く、正しい理解の下で署名されたのか疑問です。

問 働き方改革、窓口で書かない、窓口に来なくていい市役所を目指してる中で、なぜ今の庁舎で、こども家庭センターの窓口一本化を考えなかったのか。

答 (副市長) 以前より、庁舎全体で何が業務上支障になっているか議論する中で、執務室が狭い、会議室が足りない、休憩室がないなど、職員から苦情・要望がありました。それを十分に集約し、新たな庁舎を建設して執務室を改善しようと考えました。そんな中、こども家庭センターの設置、一本化の通達がありました。また防災センター機能も危機的な状況であったため、十分に議論し、増築することになりました。



森田 博美 議員
(清流会・かさいを育む会)

市長の行政執行を問う ③



問 新病院の建設について、決定的に説明不足だ。新しい病院は必要なのか、費用はどれくらいかかるのか、現病院はどのように活用されるのかなど、市民からは不安の声が多く寄せられている。もっと情報を提供すべきではないか。前計画では完成を迎える時期に来ているが、完成までさらに 5 年かかる。今後の建設に向けた推進体制は。

答 (副市長) 令和 7 年度から建築工事の基本設計、実施設計に取りかかりますので、4 月以降に建設推進に向けた体制を整

え、計画どおりに進めたいと考えます。

問 前計画に費やした費用 2.6 億円は、市長が責任を取るべきではないか。

答 (市長) 現地建て替えは、診療制限により診療報酬が大きく減少します。現病院の敷地は改築工事が難しい場所であることに加え、西館工事の際に騒音問題があったことから移転を判断しました。一般的に現地建て替えの選択肢はありません。57 年建築基準の不適合は以前から判明しており、今の事象だけで責任を問われることには憤慨しています。

問 医師確保に向けた市長の具体的な取組は。

答 (市長) 医師確保は最大の課題であり、神戸大学や関連病院にも要請しながら、関係首長

にも医師派遣を相談しています。できる範囲で医師確保に努めています。医師会とも連携を図りつつ鋭意努力しています。

問 耐震化の不十分な加西病院の安全確保は。

答 (市長) 危機意識を持ちつつ、災害時の患者受入れ等を想定しながら訓練を行っています。防災についても、今できる範囲はしっかりと配慮しながら頑張っています。

問 現病院の跡地活用は。

答 (市長) しっかりと検討する必要があります。時期尚早の判断は禍根を残す可能性もあり、また、一日でも早く決めなければならない状況ではありません。耐震補強が可能なら有効な方法を考えたいと思います。